やぐもだい

令和８年１０月３０日
調布市立八雲台小学校
校長　　石川　淳
https://www.chofu-schools.jp/yagumodai-sho/



「ささいなことをまもり通す」

校長　　石川　淳

日光移動教室などの宿泊行事では、普段ではわからない子どもの様子がみられます。

東照宮の見学の時に、門の敷居を意識してまたいでいる子がいました。「ここ乗ったり踏んだりしたら失礼なんだよね。」と言います。私が「おぉ、勉強してきたね。」と聞くと、その子は「はい。二社一寺のことを調べていて知りました。」と答えてくれました。同時に「でも敷居、結構削れている。平気で乗っている人もいるなぁ…」調べたことと目の前の現実の狭間で戸惑っているようでした。食事では、ごはんをひと粒も残さないように食べている子、起床の時、寝具をきれいに折り重ねている子を見かけ「自立の準備が始まっているな」と思いました。

料金を払っているのだから、自分が使った後のことには関心をもたない、というお客目線の考えもありますが、それでは社会の一員として生きる実践的態度を養う目的で、学校で宿泊行事を実施する意味がありません。今回の日光で室長たちが決めたスローガン「自律心計(自分たち・楽しむ・計画的に、の意味を合わせた造語だそうです)」に象徴されるように、共に過ごす仲間や、宿舎や見学場所の人、一般の観光客の人など、自分以外の相手の立場も想像して行動できるようになることが、宿泊行事のねらいのひとつです。この点からも、子どもたちは多くのことを学んでいました。

敷居に乗らないのと同じく、昔は生活の場が畳だったので、当時の子どもが厳しく躾けられたことに「畳の縁は踏まない」がありました。その理由はいくつかあるようですが、自分の振る舞いや身のこなしに絶えず気を配りながら行動することが大切だということを教えてくれているように思います。

現在の生活の中でも、食事の時には「いただきます」「ごちそうさま」、ごみが落ちていたら拾う、靴が乱れていたら他の人の靴まで揃えるなど、守らなくても大した違いはないことがたくさんあります。しかし、ささいなことでもあたり前のようにまもり通せる人は、常に相手を思いやれる魅力を身につけた大人になっていくことでしょう。人の目を気にする、体面を気にするのとは根本が違います。行動の規準が他者にではなく自分にあります。相手を思いやることを価値あることと自分が会得し、心から湧き出た動機が立ち居振る舞いとして現れているからです。誰でもできるささいな事を、誰でもはできないくらい続けられるよう、今後も取り組んでまいります。

◆学校運営協議会のコーナー ＆ 地域連携の紹介◆

〇地域協働本部事業「植物とハナバチ」　10月1日(木)

地域協働本部事業として毎年行われる「植物とハナバチ」の学習が4年生を対象に行われました。地域の方が講師として、ハチの習性や花壇の花の特徴等、たくさんのことを教えてくださりました。子どもたちもハチを葉っぱに乗せて観察したり、花の様子を観察したりと楽しく活動しました。

〇地域住民大運動会　10月18日(日)

八雲台小開放運営委員会が主催の地域住民大運動会が開催されました。晴天の中、綱引きや障害物競走、パン食い競争等の競技を、児童や保護者、地域の方、教員が楽しく活動しました。

◆「学校と保護者・地域住民等とのより良い関係構築のためのガイドライン◆

先日、調布市教育委員会より「学校と保護者・地域住民等とのより良い関係構築のためのガイドライン」について、すぐーるにて配信されました。本校でも本方針を踏まえつつ、児童生徒に対する教育活動の充実と教職員が安心して職務に従事できる環境を確保するため、今後も、保護者や地域の皆様と学校が互いに尊重し合い、より良い関係を築きながら、子どもたちの成長を支えて参ります。引き続き、調布市立学校の教育活動に御理解と御協力をお願いいたします。